

## 2022 年度 個人研究実績・成果報告書

2023 年 4 月 24 日

所属	商経学部	職名	准教授	氏名	大賀 紀代子
研究課題	イングランド綿業史における「手織物工場」の実態について				
研究キーワード	産業革命 イギリス 綿業	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	4. 質の高い教育をみんなに	8. 働きがいも経済成長も	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	5. ジェンダー平等を実現しよう	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>今年度も引き続き、産業革命期のイギリスを対象とし、そこにおける「手織工」をはじめとする生産形態・経営形態の実態とその変化についての考察を行った。</p> <p>本研究で自身がおこなった一次史料（British Parliamentary Papers）の分析では、手織工が賃金低下に陥らないように、イギリス政府が手織工の生産する商品に対し、社会的にコピーライトの権利を認めるしくみをつくるようはたらきかけていたことがわかった。「自由放任主義」と称される当時のイギリス政府が、貧困を防ぐために特定の産業従事者に対し大きく関与していたことは、いままでの産業革命期イギリス綿業研究の解釈とは異なる見解を得るに至ったといえる。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文（査読あり）】</p> <p>2022 年度は論文作成に向けての下準備のため一次史料の解説等を行ってきたが、夏以降体調を大きく崩したためその成果を 2022 年度内に論文としてまとめることが難しい状況であった。そのため、一次資料の分析結果などの成果は 2023 年度に論文としてまとめる予定である。</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <p>【学会発表等】</p> <p>3. 主な経費</p> <p>イギリス経済史・イギリス史関連の書籍を購入した。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>千葉県開発審査会委員（2016 年 4 月～継続中）</p> <p style="text-align: right;">（本文は 2 ページ以内にまとめること）</p>					